



笹賀の世帯数・人口
世帯数 4,571 世帯
人口 10,629 人
男 5,354 人
女 5,275 人
(令和4.1.1 現在)

大豆づくりから味噌づくりまで

2年2組の挑戦

11月18日、菅野小学校2年2組のみんなが、いよいよ味噌づくりをするということで、子ども頃「味噌玉」を作ったことを思い出しワクワクしながら、小学校を訪ねました。



はじまりは覚心さんとの出会いから

4月・1年生との「がつこうたけん大さくせん」で校長室に飾られていたお坊さん「法燈(はつとう) 円明(えんめい) 師覚心(しかくしん)」の絵を発見。



5月・覚心さんは800年も前に神林の福應寺(ふくおうじ)にいたお坊さんで、中国に修行に行つた時に味噌の作り方を教わつてきて日本に伝えた人だと分かる。「私たちも味噌を作つてみたい」「自分たちで育てた大豆で味噌が作れたらすごいね」

6月・畑を貸してくれる山田さんに手紙を書く。植え方

育て方を調べ、いよいよ大豆を植える。はじめての水やり。
7月・夏休み中の草取り。
8月・大きく育つた大豆の葉っぱの中でかくれんぼ。

9月・枝豆を食べる。味噌の作り方を調べる。佐久市で覚心さんゆかりの「安養寺味噌」を作っている阿部さんに手紙を書く。

10月・大豆の収穫。

いよいよ「味噌づくり」

一晩水にさらしておいた大豆を、担任の池上先生が朝5時から煮ていたそう、家庭科室からはいい匂いがたまたよってました。今日は収穫した大豆で味噌づくりをする日です。指導してくれるのは、佐久の岩村田からかけつけてくれた味噌醸造会社「和泉屋商店」代表の阿部博隆さんです。阿部さんは、味噌づくりに必要な麹と塩と種水を用意して持って来てくれました。

4人ずつ8班に分かれたそれぞれ調理台のコンロには大きな鍋の中に熱々の大豆がいっぱい。ざるにあけて、柔らかくなった大豆を指でつぶして食べてみると「豆の味だ」「美味しい」と子どもたち。

麹と塩を秤ではかつてビニール袋に入れて混ぜ、両手で揉んで



▲味噌玉づくり

なじませます。次に冷ましておいた大豆をビニール袋に入れ二重にして輪ゴムでとめます。まずテーブルの上で手でつぶし、床に下ろし足でつぶします。

十分に大豆がつぶれた中に麹と塩を入れて混ぜたところに秘伝の種水(乳酸菌+酵母+ビタミン)だそうです)を入られてぐちゃぐちゃに混ぜます。だんだん「味噌」のようになつてきました。それをおにぎりのように丸めて桶の中に投げ込みます。

きれいに詰めて15kgの桶で5つ完成しました。この桶を阿部さんが佐久に持ち帰って蔵で醸造させ、3月にはクラス全員で味わうことができるのとです。

植えたはじから鳥がきて食べてしまうことに驚いた子どもたちがカカシを作ったこと。暑

い日が続く中での水まきや草取りに地域の方々や家族が助けてくれたこと。大きくなった大豆畑の中でかくれんぼがはじまったこと。色々なことをみんな考えてみんなで協力してできた「味噌づくり」は、子どもたちに様々な学びを広げてくれたと校長先生はおっしゃっていました。

覚心さんが中国から日本に伝えたとされる「味噌」を、自分たちも作つてみたいとの思いから始まった挑戦。大豆の栽培から収穫そして昔ながらの作り方による自分たちの味噌の味は格別なものになるでしょう。

ちなみに、まだ余っている大豆で、今度は「豆腐づくり」に挑戦することです。



下小俣町会自主防災訓練



11月7日10時より下小俣公民館で芳川消防署神林出張所署長補佐の齋藤さんをお迎えして自主防災訓練が行われました。

外で消火器の使い方をお教わりました。14秒しか使えない、必ず逃げ道を確認する事などを教わり実際にやってみました。小学生の男の子は使い方を覚えられて良かった、お父さんからはちゃんと使い方をもう一回学べて良かった、と感想がありました。

その後、公民館へ移り講話を聞きました。自分の家族を守る**自助**、隣同士の声のかけ合い**近助**、地域での**守り共助**、行政が中心となる**公助**が大切という事です。

平成26年11月22日長野県北部地震が起きました。その時、白馬村では住民の共助により死者はゼロでした。地震発生から1時間半で全世帯の状況を確認したそうです。住民の男性はほとんど消防団員かOBだったという事。日頃から高齢者の情報「ささみアップ」を作っていたそうです。松本より出動し、着いた時にはすべてが終わっていたそうです。この話を聞いて自主防災というのは大事な事と思いました。



地震や災害が起きたらどうするのか、何を持っていくのかいつも考えているのでとてもためになった、とても良いお話だったと感想がありました。樋口

町会長さんからは、とても有意義な時間ができて良かった、水野総代さんからはコロナでどうなるか分からなかったけれど、どうしてもやりたいと思うので開催できて良かった。全員参加型にして共助を考えていきたいとお話いただきました。

齋藤さんからは、コロナ禍のなか笹賀地区のみなさんは防災訓練を町会ごとよく開催してくれています。今回は少ない人数でケガ人を運ぶ方法、女性だけでもできますので、機会があればやりましょうとお話いただきました。

不定期連載 交通コラム③

手を上げて合図しましょう

道路横断時に手を上げるという事がなくなると久しいので、令和3年3月30日号に「手を上げてみませんか」と書きました。

なぜ手を上げなくなったのか。これは1978年に、歩行者は車の通過を待つという方針に変えられたため、交通安全教育からは無くなっていたのです。

しかし、昨今の交通事情から、歩行者の安全を守るため、昨年43年ぶりに復活しまし

令和4年 松本市成人式

1月9日(日)に松本市総合体育館で令和4年松本市成人式が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で2部制での開催となり、当日の式典の様子はYouTube松本市公式チャンネルでライブ配信され、録画配信もされました。

今年の対象者は平成13年4月2日〜平成14年4月1日生まれの方で、笹賀地区では、149名が晴れて成人を

迎えました。おめでとうございます。

また、令和4年4月1日から民法上の成年年齢が20歳から18歳に引き下げられます。松本市成人式では、当面の間、現行どおり20歳になる方を対象とする方針が決定しています。式典の名称については、今後実行委員会での検討していくとのことです。



に難くありません。

また歩行者が、渡ると危険と判断して、車を先に行かせるといふことも変わらない選択肢です。この時にコミュニケーションができていないと、車は止まっていけないか行っていないかわかりません。よく聞く愚痴になってしまいます。

昔の小学生のようにまっすぐ手を上げなくてもいいと思うんです。「渡りたいから止まってくれないかな?」と、安全な位置から見えるように『はっきり』手を上げる、または「どうぞ」とうながせば、お互いの気持ち伝わるのではないのでしょうか。